

みどりひと



みどりの新聞 平成21年3月5日 発行 No.147



▲ハヤザキオシマ



▲ウコンザクラ



▲ウワミスザクラ



弥生三月。桜の開花が待ち遠しい時期。区内では善福寺川沿いが桜の名所として有名ですが、それより早く咲く桜があります。蚕糸の森公園の「ハヤザキオシマ」です。そこで、同公園を訪ねてみました。最寄り駅、東京メトロ東高円寺駅を出ると、そこはもう公園の入り口。前に杉並第十小学校を見て、右手に「香りの散歩道」と呼ばれる園路が開けています。そこに目指すハヤザキオシマがあります（樹名板が付いています）。花も葉もつけていない冬にはうっかり見過ごしてしまいそうですが、蕾は一月下旬頃から静かに、確実にふくらみ始め、例年、三月中旬〜下旬にはたくさんのお花を咲かせます。付近一帯は通勤・通学路にあたり、朝な夕なにはたくさんのお花の目に触れています。

時間に追われがちな日々、ふと見上げると、もつそこにはサクラの花が…。ここをなごませるひと時です。お花見に出かけるのも楽しいものですが、身近に見られる花やみどりにも十分癒されます。ちなみに、オオシマザクラは様々なサクラの交配の親株にあたり、ハヤザキオシマはソメイヨシノとオオシマザクラを交配して作られた品種です。一方、遅咲きのサクラとして、区内では荻窪税務署のウコンザクラ（四月中旬の開花時には、淡い黄緑色の花が次第に淡い桃色に変化する）や大宮小学校近くのウワミスザクラ（新緑の頃にユニークな形の白い花をつける）があります。花と新緑が楽しめるこれからの季節を楽しみましょう。

連載 すきなみ きになる木

蚕糸の森公園のハヤザキオシマ
「ひと足お先に」お花見を

専門家に聞く

園芸ワンポイント

指導 澤地家治 先生

みどりに関する専門相談は 塚山公園みどりの相談所 TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)

クンシラン (君子蘭/ヒガンバナ科)



南アフリカ原産。ランの仲間ではなく、ヒガンバナ科に属します。学名のノビリスとは「高貴な」という意味から、君子蘭といわれています。

●植え替え

花が終わった頃、数日前から水やりを控えて鉢から株を抜きやすいようにします。長い根を切詰め、古い根を除き、小さめの鉢に根をひねりながら植え込みます。鉢の内は、排水、通気性をよくすることが必要条件。根の間を竹べらなどでつき、根際が隠れるくらいまで用土(赤玉土に2割ほどの腐葉土)を足します。植え替えが終わったら、水をたっぷり。植替えは毎年行うとよいです。

たら十分に。8~9月の水のやりすぎは花芽がつかなくなる原因となるので注意。

●置き場所

夏の直射日光は葉焼けを起こしやすいので、風通しの良い戸外の半日陰に置きます。冬は最低温度3℃以上の室温に。屋外なら昼夜の温度差の少ない所が安全です。葉が一方に向かわないよう、10日に1回くらい方向を変えます。

●開花期

12月始め頃より5~10℃くらいの低温で50日以上置くと花芽ができます。無理に高温(14℃以上)にすると、その後花茎が伸びず、葉の間で花が咲くことになります。花が終わる次第、花茎を元より切り除きます。

●株分け

全部の土を除いた後、刃物で切って株元で分けます。古根、腐った根を除き、新しい土で植えつけてください。子株の葉の数が全体で12枚くらいになったものを株分けしたほうが、花がすぐ楽しめます。



●施肥・水やり

油粕、骨粉の玉肥を生長期中に1カ月1回くらい。夏季、窒素肥料は控えます。水は鉢の表土が白く乾い

●年間手入れカレンダー (関東地方以西・加温なし)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
手入れ												
育成状況				開花期				生長期				
植替え				株分も含む								
施肥					置肥				置肥	液肥(1000倍液)		
水やり			3日~5日に1回				少なめ				4日~5日に1回	
置場	室内・レースカーテン越し				戸外の軒下			戸外の日陰			軒下に	



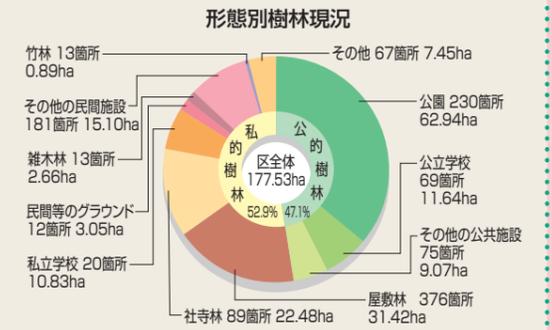
澤地家治 (さわちいえはる) 杉並区みどりの相談所専門相談員。樹木医。



杉並のみどりはどうなってるの?

—平成19年度杉並区みどりの実態調査報告(最終回) その4 樹林調査編—

みどりの実態調査は、区内のみどりの実態を把握するため、昭和47年より5年ごとに実施しています。調査は前号までに掲載した緑被率調査、接道部調査、樹木調査を含め10以上の内容です。今回は、樹林調査の結果についてお知らせします。区内には、面積300㎡以上の樹林が1,145箇所、177.53haありました。形態別にみると右図のようになります。樹林を地域の良好な生活環境を維持する貴重な財産として、所有者とともに、地域ぐるみで守り、育てていくことにご協力下さい。



編集後記 「みどりひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 春は黄色い色からやってくると言われるとおり、公園ではレンギョウ、トサミズキ、ヒュウガミズキ、サンシュユ、マンサク、ヒイラギナンテンなどが咲き、色のグラデーションを楽しむことができますよ！(山)
- 長い間住んでいるのに全然知らない地域がまだまだたくさん…。取材のたびに思います。杉並区は広い！(朋)
- 散歩の道すがら、今号で紹介されているヒメツルソバが、まだ寒風吹きさす中、石積みの土手にぎっしりと群生して開花しているのに出会いました。いよいよ春が、と思いきや、聞けば今では年中咲いているんですね。それでいいの？(羽)
- 植物は寒い冬の間に、しっかり春の準備をしていたようです。人が緑から学ぶことはまだまだたくさんあるようです。(鈴)

みどりの新聞 みどりひと147号 平成21年3月5日発行

編集/みどりのボランティア 編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111 「みどりひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 http://www.city.suginami.tokyo.jp/



大豆インク使用。ケナフ100%紙使用。

緑の歳時記

杉並区内でよく見かける帰化植物

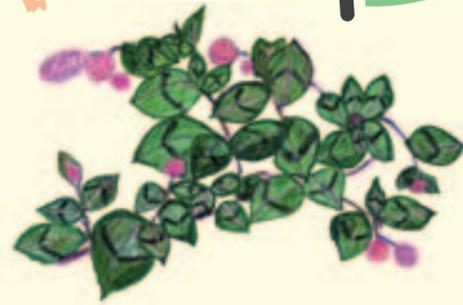


ヒメツルソバ (姫蔓蕎麦) タデ科

ヒマラヤ原産の多年生草本

茎は根元からよく枝分かれして、地表を這って広がり、長さ50cmほどになります。茎葉ともに赤褐色の毛があります。葉は互生し、長さ1~3cmの先のとがった卵形で、全縁です。表面には黒っぽいV字型の模様があります。秋には赤く紅葉します。暖地では花をほぼ1年中見ることができ、茎の先端に淡紅色の小花が直径1cmほどの卵形か球形に多数集まってつきます。

明治の中期に園芸植物として日本に入り、観賞用として植えられましたが、野生化したものがあちらこちらで見られます。善福寺川下流の和田堀橋~霊峰橋~光明橋左岸の、陽のあたる側に幅約2m、長さ



300mにわたって群生しています。「姫」という名がついている割には寒さや暑さに強く、繁殖力が旺盛です。

同じ仲間の、アカマンマ(赤飯)と呼ばれまごとの遊びに昔から使われた在来の「イヌタデ」のほうが、身^{みびいき}臍^み負^いかもしませんが親しみやすく、可憐な花だと思いませんか。

みどり探訪

一地域と共に守り、育てる貴重木

貴重木とは、杉並区みどりの条例に基づき指定されている保護樹木のうち、特に大切に残そうとしている樹木です。

甲州街道を350年間見守ってきた 宗源寺のラカンマキ

京王線桜上水駅から北へ5分ほど歩くと、甲州街道沿いに宗源寺という日蓮宗の寺院があります。今回はこのお寺を訪ねました。街道に面した山門をくぐると、正面の本堂に寄り添うように繁っている大きな木が見えます。区の貴重木に指定されているラカンマキ(羅漢楨、マキ科)です。高さ9m、胸囲は2mを超え、枝を南に向かってぐんと張り伸ばした姿



は、堂々とした風格があります。樹齢はおよそ350年、ラカンマキでこれだけ古く大きな木になるのは大変珍しく、平成7年には区の天然記念物にも指定されました。道すがらこの木の様子に目を止めて立ち寄られる方も多いそうです。

ご住職に伺うと、江戸時代初期、関が原の合戦で豊臣方についた武将が甲州の富士吉田から落ち延びてこの地に移り住み、宗源寺を開いたということが伝えられているそうです。ラカンマキが境内に植えられたのはそれから半世紀ほど後のことのようにです。以来、お寺も木も本当に長い年月地域とともにその歴史を刻んでいます。

お寺の行き届いた手入れを受けて、老木ながら今も生き生きと緑深く葉を茂らせているラカンマキを見ると、古い樹木をこのように大事に残していくのは大変だけれど、とても重要なことであると改めて考えさせられます。



●アクセス
京王線「桜上水駅」から：徒歩5分
京王線の頭線「浜田山駅」から：南北バスすざ丸「1.浜田山駅南」で乗車、「11.宗源寺」下車 すぐ

「みどりのボランティア杉並」第5期会員を募集します!

みどりのボランティア杉並は、地域緑化に関するボランティア活動を始めようとする方の、きっかけの場です。会員は生活者の視点を大切にしながら、仲間と一緒に区内のみどりを守り、増やし、育てる活動を行います。



どんな活動をするの?

区が活動内容を示すのではなく、ボランティアの方々同士で話し合い、活動内容を考えていただきます。これまでの活動内容は、樹木・草花の維持管理、樹名板設置、腐葉土づくり、みどりに関する印刷物の編集などです。



誰と活動するの?

お住まいが比較的近い方々と活動していただきます。第4期では、区内を南北に分けて2つのグループで活動していますので、同様の地域分けで先輩ボランティアと一緒に活動していただけます。



いつ活動するの?

活動日は、例会で活動内容に合わせて決めていきます。屋外での活動は昼間がほとんどで、話し合いも屋間に行われることが多いです。都合に合わせて平日・休日どちらも活動が行われます。現在の活動頻度は月1~2回が多いです。



どこで活動するの?

現在は、公園や、いきの森(市民緑地)での活動が主です。お住まいの近くでの活動をしていただけます。



「花咲かせ隊」や「公園育て組み」とは違うの?

違います。みどりのボランティア杉並は活動内容が多岐にわたり、活動場所が一つではないことが特徴です。

活動に参加しているひとの感想は?

みどりのボランティア杉並第4期で、本誌「みどりとひと」の編集にも携わっていただいているお二方に、約1年間活動した感想をお聞きしました。

◆鈴木さん

Q.みどりのボランティア杉並に参加しようと思ったきっかけは?

A.街中や公園で見かける樹木、草花に関心がありました。植物は一日として同じ姿を見せないと云います。季節の移ろいと共に、変わりゆく「みどり」と関わりたいと思いました。

Q.みどりのボランティア杉並に参加してよかったことは?

A.まわりの方々から良い刺激が得られること。博学多識にして博覧強記で知られる方や、確かなスキルと人生の厚みを感じさせる方、謙虚でさりげなく貢献されておられる方など多士済々です。身近なみどりに親しみ、さまざまな形で楽しみたいという方々におすすめです。

◆松永さん

Q.みどりのボランティア杉並に参加してよかったことは?

A.樹木についていろいろ教えていただいたり、自分で調べたりする機会が増えて、よく知らなかった世界での知識が広がりました。

Q.活動前はどんな不安がありましたか? 活動してみてどうですか?

A.ボランティア活動自体はじめてのことで、自分でどの程度のことのできるのか、実際の活動とはどういうものか皆目見当がつかず不安でした。

作業は力仕事不得意ですが、それでも参加してみるとなんだか楽しい、のびのびした気分になります。木や草が相手だからでしょうか。「みどりとひと」の編集は、会議や取材の時にいろいろ教えていただくことも多く、また新聞という形で残るのはうれしいものです。



ボランティアの先輩に教えてもらいながらの植物管理



樹名板の製作・取り付け



ロープ柵の設置なども

活動までの流れは?

【1】まずは、ご応募下さい!

●登録資格

区内在住・在勤・在学の方、または区内に活動場所を希望される方で、次に該当する方
(1)無報酬で活動できる方
(2)みどりに関心を持ちボランティア活動に理解と意欲のある方

●登録期間

平成21年4月~23年3月
(原則2年間。1回に限り更新できます)

ので、最長4年登録できます)

●申込方法

ハガキ・ファクスで、住所・氏名・連絡先・「みどりのボランティア杉並参加希望」を記入し、杉並区役所みどり公園課へ(「問い合わせ先」参照)

●申込締切

平成21年3月16日(必着)

【2】

3月末~4月上旬に、説明会や登録のご案内をお送りいたします

【3】

4月に説明会を開催します。説明会

終了後、登録用紙に必要事項を記入いただき、登録完了(説明会に参加できない場合、資料をお送りいたします)

【4】5月頃に平成21年度第1回の全体会を開催し、活動がスタートします!

問合せ先

杉並区役所みどり公園課みどりの計画係
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
Tel:03-3312-2111(代表)
Fax:03-5307-0697